



日本共産党は15日、党創立100周年を迎えました。これに先立って、志位和夫委員長は14日記者会見し、談話「日本共産党の歴史は、今に生きる力を発揮している―党創立100周年にあたって」を発表しました。

志位氏は、100年を貫く特質として、不屈性、自己改革、国民との共同を強調。「それは、今に生きる力を発揮しています」として、4つの角度から語りました。

- ①命がけで「国民主権」と「反戦平和」の旗を掲げた戦前のたたかいは、日本国憲法に実り、いま多くの政党がロシアの蛮行に乗じて軍拡・改憲の大合唱を行うもとで、今に生きる力を発揮しています。
- ②“どんな国であれ覇権主義を許さない”という歴史と立場は、ロシアや中国の覇権主義が深刻になり、異常な「アメリカ言いなり」の政治を根本からただすうえで、いよいよ

志位委員長が談話



記者会見する志位委員長
14日、国会内

- よ重要です。
- ③国民の共同の力で社会変革を進めるという立場は、この間の市民と野党の共闘の成果に結びついています。
- ④社会主義・共産主義の実現を掲げ続けてきたことは、気候危機の深刻化、貧富の格差の劇的な拡大など、地球規模での危機が進むもとで、資本主義を乗り越えた新しい社会をめざす立場がいよいよ重要になっています。

折り目

安倍元首相礼賛の「国葬」実施に反対する

志位委員長が談話

日本共産党

岸田文雄首相が、銃撃を受けて死亡した安倍晋三元首相の「国葬」を今秋に行うことを発表したことについて、日本共産党の志位和夫委員長は15日、「安倍元首相礼賛の『国葬』実施に反対する」との談話を発表しました。

岸田首相は「国葬」とする理由について、震災復興、経済再生、外交など、安倍氏の「ご功績は誠にすばらしいものがある」としました。

安倍氏の評価は分かれている

志位氏は、共産党が安倍氏死去に深い哀悼の気持ちを述べるなど、「政治的立場を異にしているも、亡くなった方に対しては礼儀をつくすのがわが党の立場」と表明。同時に、それは安倍氏への政治的評価・批判とは別の問題であるとし、首相在任時に、内政・外

交政策の全般、政治姿勢に厳しい批判的立場を貫いてきたこと、国民の中でも安倍氏への評価は大きく分かれていると指摘しました。

弔意強制、あってはならない

そして、安倍元首相全面礼賛の立場で「国葬」を行うことは、評価が分かれている安倍氏の政治的立場や政治姿勢を国家として全面的に公認、賛美・礼賛することになると批判。「国葬」実施は、安倍氏への弔意を個々の国民に強制することにつながることで、弔意を示すかどうかは内心の自由の問題であり、弔意を事実上強制することはあってはならないと述べています。そして安倍氏が果たした役割は、事実に基づく冷静な評価が行われるべきと強調しました。